

2021 年度日本太陽エネルギー学会 研究発表会開催報告

若尾真治*

1. はじめに

2021（令和3）年度日本太陽エネルギー学会研究発表会は、11月11日～12日の2日間にわたり、昨年度と同様 COVID-19 の影響により Zoom を利用したオンライン研究発表会となり、例年実施されていた見学会、特別講演会、懇親会は中止となった。研究発表会では71件の発表に対し133名の参加があり、例年と遜色なく活発な議論が行われた。

2. 研究発表会の概要

本年度のオンライン研究発表会では2つのセッションを設定し、表1に示す分野における研究成果が発表された。本年度からの新たな試みとして、発表会プログラムに加え、各発表の概要を事前に学会

表1 発表分野と発表数

発表分野	発表数
気象・地球環境	5
太陽熱利用	4
太陽電池セル・モジュール	9
太陽光発電システム	27
風力・水力	1
建築	7
材料・素子	2
光化学・電気化学	1
生物・バイオマス	7
応用利用・エネルギー貯蔵	5
理念教育	0

表2 セッションの参加者数（座長・発表者含む）

11/11			
セッションA	参加者数	セッションB	参加者数
A1【太陽電池Ⅰ(材料・デバイス)】	28	B1【気象・日射Ⅰ】	23
A2【太陽電池Ⅱ(材料・デバイス)】	19	B2【気象・日射Ⅱ】	41
A3【太陽光発電Ⅰ(日射・出力予測)】	44	B3【建築環境設備】	18
A4【太陽光発電Ⅱ(システム)】	54	B4【環境建築】	26
A5【太陽光発電Ⅲ(ソーラーカー)】	50	B5【太陽熱利用】	19
A6【太陽光発電Ⅳ(不具合①)】	46		

11/12			
セッションA	参加者数	セッションB	参加者数
A7【太陽光発電Ⅴ(不具合②)】	33	B6【100%RE部会 特設セッション】	31
A8【太陽光発電Ⅵ(不具合③)】	45	B7【風力・バイオマスⅠ】	19
A9【太陽光発電Ⅶ(不具合④)】	45	B8【バイオマスⅡ】	19
A10【太陽光発電Ⅷ(両面・集光)】	37	B9【応用利用】	19

ホームページにて公開した。さらに、参加者が興味のある発表を自由に聴講できるよう、ブレイクアウトセッション形式で容易にセッション間を行き来できる設定とした（表2）。

研究発表会運営委員会および事務局は以下の通りである（順不同、敬称略）。Zoomのホストを担当いただいた事務局をはじめ、研究発表会の計画から当日運営まで担当いただいた委員の方々、関係各位の御協力に感謝の意を表する。

委員長	若尾真治	早稲田大学
副委員長	加藤和彦	産業技術総合研究所
	野村裕宗	出光昭和シェル
委員	石井徹之	電力中央研究所
	植田 譲	東京理科大学
	宇都宮健志	日本気象協会
	太田 勇	ミサワホーム総合研究所
	佐々木剛	矢崎エナジーシステム
	高野章弘	F-WAVE
	盧 炫佑	OMソーラー
	益子慶一郎	パナソニック
事務局	池田祐一	日本太陽エネルギー学会
	竹井 泉	日本太陽エネルギー学会
	荒井洋子	日本太陽エネルギー学会

3. おわりに

昨年の初めてのオンライン研究発表会での経験を活かし、本年度はよりスムーズな発表会運営が可能となり、参加者のアンケートでも好評な回答を得ることができた。一方で、深い議論を行う上で対面開催を望む意見も寄せられている。オンライン開催の2年目となった今回は、昨年よりも発表件数が減少しており、Post COVID-19における学会活動の在り方の検討は喫緊の課題であるとあらためて感じた。オンラインツールの利便性も活かしつつ、会員の満足が得られるよう、研究発表会やセミナー、講習会など、各種イベントの特性に合った効果的な情報交換の方策を学会として考案していく予定である。

*早稲田大学 理工学術院 教授